

土木学会 コンクリート委員会
平成 29 年度 第 3 回規準関連小委員会議事録（案）

1. 日 時：平成 29 年 11 月 28 日（金）13：00～17：00
2. 場 所：土木学会 C・D 会議室
3. 出席者（敬称略）：久田委員長、横関幹事長、五十嵐委員、上田委員、上野委員、氏家委員、小川委員、片平委員、川西委員、岸委員、国枝委員、坂本委員、平塚委員、堀口委員、堀越委員、正村委員、皆川委員、森委員、山口委員、酒井オブザーバー
4. 配布資料
 - 8-0 議事次第
 - 8-1 第 7 回規準関連小委員会議事録（案）
 - 8-2-1 四電極法によるコンクリートの電気抵抗率 試験方法（案）
 - 8-2-2 四電極法によるコンクリートの電気抵抗率 試験方法（案）－解説
 - 8-3-1 コンクリート中の水分浸透速度係数試験方法（案）
 - 8-3-2 浸透深さ測定結果の例
 - 8-4 土木学会規準（コンクリート委員会制定）の制定／改訂に関する規定（案）
 - 8-5-1 土木学会規準 目次
 - 8-5-2 関連規準 目次
 - 8-6 改訂資料（案） セメント・水・混和材 WG
 - 8-7 PE シースに関する新規規準－解説（案） 鋼材・補強材 WG
 - 8-8 目次案および新旧対照表 フレッシュコンクリート WG
 - 8-9 改訂資料（案） 硬化・製品 WG

5. 議事

(1) 委員長挨拶

久田委員長から「規準編発刊の具体的なスケジュールが確定したので、最終の取り纏め作業を進めて頂くようお願いしたい」という旨の挨拶がなされた。

(2) 前回議事録確認（資料 8-1）

横関幹事長より、前回議事録（案）の確認がなされ、一部の誤字の修正の後、承認された。

(3) 電気抵抗率の測定方法（資料 8-2-1, 8-2-2）

皆川委員より試験方法（案）および解説（案）に関する指摘事項とそれに対する対応について説明がなされ、以下のような意見があった。

→本文および解説の「装置」で挙げている「交流電位差計」は厳密には「電圧計」とすべき。

→「供試体の作製方法または採取」では、JIS などの既存の規定をできるだけ引用する形にして、本規準案のスリム化を図るべき。

上記の指摘事項を踏まえた最終版を作成し、途中経過も添えて常任委員会に提出することとなった。

(4) コンクリートの水分浸透速度係数試験方法（案）（資料 8-3-1、8-3-2）

2018 年版示方書設計編で引用される予定の標記試験方法案に関して、酒井先生（東京大学）より具体的内容が説明され、それに対する審議がなされた。主な指摘事項は以下の通り。

- ・ 海外の類似基準との関連は？（→従来の含水率ではなく、深さとして取り扱っている）
- ・ 設計編での具体的な活用方法とその場合の整合性について示すべきでは？
- ・ 試験における乾燥状態が想定する実際の状況は？
- ・ 乾燥条件が複数提示されているが、規準として妥当か？（→高温条件は促進試験として位置付け）
- ・ 式中の変数の定義の誤りに関する指摘（ r および θ ）
- ・ 「電極など」が意味する具体的な内容を明確にし、記録の項目に追加すべき。
- ・ 試験方法を文章だけでなく、図で示す必要がある。
- ・ 本文中の「試薬」、「見地可能な物理量」「予備試験」等に関する具体的な問い合わせがあり得る。
- ・ 6.1.2 「…の深さと…した時間との関係を整理する」の内容を図で例示すべき。
- ・ 6.1.2 「水を最初に検知した時間の…として用いる」の意味が分かりにくい。
- ・ 5.2.2 「適切な時期」を具体的に明示すべき。
- ・ 「型枠を外すまでの時期」と「養生」が併記されているため誤解される可能性がある。

上記の審議を受けて、SWG を設置し、硬化コンクリート WG で改訂版を審議したうえで、2 月 16 日の常任委員会に諮ることとなった。なお、SWG には酒井先生に委員として加わって頂く。また、各 WG からの追加の指摘事項は横関幹事長に連絡することとなった。

(5) 各 WG 活動・進捗報告

<将来構想 WG>（資料 8-4）

上田委員から、規準制定/改訂に関する規定（案）の修正版について説明がなされた（常任委員会に諮る際に、解説を参考資料として提出する点が追加）。また、改訂資料に盛り込むことを前提に、WG でこれまで議論を踏まえて「示方書に基づく性能照査を行うにあたっての必要な土木学会規準の現状と課題」という観点で取り纏める方針であることが説明された。

- 養生効果の評価、促進倍率の評価手法、断面修復材の評価に及ぼす母材の影響、最新技術の活用基準、複合劣化の評価手法、空隙特性の評価手法など、未だ多くの課題がある。
- 各 WG 関連、あるいは各委員の業務の中等で今後解決すべき課題があれば上田委員に連絡する。

<セメント・水・骨材・混和材料 WG>（資料 8-6）

片平主査から、改訂資料案の内容と目次案の一部修正に関する説明がなされた。また、JSCE-C 511 における溶解シリカ量に関する記述に誤りがあることが報告され、審議の結果、正誤表で改訂前に対応することとなった。

<鋼材・補強材 WG>（資料 8-7）

山口主査から、PE シースに関する改訂および制定された規準群に対する解説について説明がなされた。

- 解説は、改訂の 3 つと新規制定の 1 つに分けて作成すること。

→ 今回の改訂・制定は、関連業界の要請および承認を踏まえての処置である旨の確認がなされた。

<フレッシュコンクリート WG> (資料 8-8)

坂本委員（日比野主査代理）から、フレッシュコンクリートの目次、改訂資料案について坂本委員から説明がなされた。なお、硬化コンクリート WG から要請された試験体の許容誤差に関する規定については、JSCE-F 506 を修正することで対応する旨の説明があり、当該部分の新旧対照表が示された。

<硬化コンクリート WG および製品・施工機械等 WG>

上野主査より、資料 8-5-2 を用いて、関連規準目次の「G. 硬化コンクリート」の修正箇所について説明がなされた。また、資料 8-9 により改訂資料案（該当部分のみ）が示された。

・ 関連規準に関して：JCI 規準については Web サイトで閲覧できるため省略してはどうか？

→ 設計編・施工編の内容を確認して各 WG で要否を検討するよう久田委員長から要請があった。

(6) その他・今後のスケジュール確認

横関幹事長から、前回の常任委員会で、規準編の審議が先送りになったことから、今後の日程が以下のように変更になった旨の説明がなされた。

<常任委員会>	12月20日	目次案+解説の審議
	2月16日	指摘事項の説明・成案
	次年度4月	常任委員会 最終確認
<規準編出版>	次年度7月	
<講習会開催>	平成30年10月19日：東京会場、	同年10月31日：大阪会場

次回（第9回）規準関連小委員会・・・平成29年2月2日(金)13時～17時

【12/5までの各WGの作業】横関幹事長へ提出

- ・ 土木学会規準の目次案修正
- ・ 新規試験方法（四電極法、PEシース、水分浸透速度）本文および解説
- ・ 新旧対照表の差し替え分のファイル

【次回全体委員会までの作業】

- ・ 関連規準の目次の見直しおよび確認
(関連規準の掲載の要否は、設計編・施工編の内容を確認して各WGで検討する。)
- ・ 将来構想WGへの情報提供
- ・ 改訂資料の修正を含む各WGの懸案事項

以上
議事録作成：山口